

Ashamed (恥いている事) 二〇二一年一月七日 フランク・ポーク

今朝起きてみて、私はアメリカ人であることにとても恥じりました。昨日の国会議事堂での暴挙と理不尽は、病みあがりの身にこたえました。一体どんな風に恥をかかずに海外の友だちにこの話ができるだろうか？私が属する国の同じ市民の一部が起こしたこの破廉恥な行動の一部始終をどうやって説明できるというのか？

これまで生きてきて、私はこの国の人々が星条旗を振り、威張りちらして「アメリカはナンバーワンだ！」と叫ぶのを見て来ました。確かにいくつかの点でそれは事実です。我々は最強の軍隊を持っている。我々は最大の経済を誇っている。合州（衆）国は、世界の大多数が夢見るより実際にははるかに物質的に豊かです。私達は科学技術の進歩に関して世界をリードしています。つまり、目に見えるあらゆる物質的、物理的な面でアメリカは世界一なのです。

それでは道徳、つまり人の道を踏み外してはいないかどうかという点でランクづけるとどうなのでしょう。昨日、私たちの大統領とその妄信的追随者、暴徒がした蛮行は、私たちの国がそしてその集団としての魂が内面から深く広範囲にわたって腐乱していることを示しました。

私達はいつも他の国にとっては一心に真似されていつかはそうなりたいと思われる対象でした。また「民主主義」を標榜し導く世界の灯台であると信じ、その事を誇ってきました。

私達はこの娑婆世界にあって他のあらゆる「掃きだめ」国家とはそもそも出来が違うのです。アメリカは特別で例外なのです。それは根拠こそあやふやですが、永らく国民の間に共有されてきた神話です。そして私たちアメリカ人自身についてはとてつとて、もって生まれて善良で好ましい人たちのだと本気で信じてきました。

私はそれらすべてをナンセンスと片付けてしまいたい。結局のところ、私たちの歴史は、暴力と偽善を満載した大型の乗り物です。私たちは建国以来ほぼ途切れる事なく誰かと戦争をしてきました。私達は黒人を奴隷にした。私達は、その信仰とそれがもたらした信念に基づいて北米先住民への皆殺しを実行した。私達がドル札と富を、全能の神のように無条件に崇めた時、それはすなわち神の意志に従う行為に外ならないのだとうそぶいた。私はいま、自分の国について烈しい悲壮感にとらわれています。

私と長男は共に陸軍軍人として兵役につき、国に仕えました。軍隊では二人とも、国の内と外とを問わず、あらゆる敵に対して合州（衆）国憲法にもとづいて戦うことを誓いました。私は自分自身を

愛国者と呼ぶことに二の足を踏みますが、仮に私が愛国者でなかったとしたら、昨日、キャピトル（国会議事堂）で起こされた惨事は、私自身をこれ程打ちのめすことはなかったでしょう。

アメリカ人はすべてではないにせよ、この世界でたくさんの前向きで良い事もしてきました。世界中の多くの人々がアメリカのもつ長所を認め賞賛してくれます。これからの事は私たちが善徳をつめるかどうか、その行動如何にかかわっていると思います。

昨日、私たちは世界を震撼させました。それでも私たちは昨日よりは良い方向に向かう事が出来るはずだと思います。私たちはだれでも善き人になれるはずです。それは分かっています。私たち人はそもそもだれもが善き人です。私は信じています。このまま恥じいったままでいたくはない。

合掌